

駒澤大学仏教文学研究所規程

(名称・設置)

第一条 駒澤大学に駒澤大学仏教文学研究所（以下「研究所」といふ）を設置する。

(目的)

第二条 研究所は、建学の理念に基づき、仏教文学及び仏教と文学に関連する総合的研究を行い、もって文化の向上に資することを目的とする。

(事業)

第三条 前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

(一) 研究会及び講演会の開催

(二) 図書及び研究紀要の刊行

(三) 国内外の同種の研究団体及び関係する諸機関等との連携並びに学会等の開催

(四) その他研究所の目的を達成するために必要な事業

(職員)

第四条 研究所には次の職員を置く。

(一) 所長一人

(二) 所員若干人

二 所員は、本学の専任教員の中から学長がこれを委嘱し、その任期は二年とする。ただし、再任を妨げない。

(所長)

第五条 所長は、研究所を代表し、研究所の運営を統括する。二 所長は、運営委員会の議を経て、本学専任教員の中から学長がこれを委嘱し、その任期は二年とする。ただし、再任を妨げない。

(幹事)

第六条 所長を補佐し、研究所の事務を掌るため、研究所に幹事を置く。

二 幹事は、運営委員会の議を経て、所員の中から所長がこ

れを委嘱し、その任期は二年とする。ただし、再任を妨げない。

(顧問)

第七条 研究所に必要な助言を与え、事業の円滑な運営をはかるため、若干人の顧問を置くことができる。

二 顧問には、退職した所長経験者を含めることができる。

三 顧問は、運営委員会の議を経て、所長が推薦し、学長がこれを委嘱する。

(運営委員会)

第八条 研究所には、運営に関わるすべての事項を審議し決定するために運営委員会を置く。

二 運営委員会は、所長及び所員をもって構成する。

(研究員)

第九条 研究所には、研究員を置くことができる。

二 研究員は、本研究所で行う研究活動に参加を希望する本学及び他大学の大学院生並びに国内外の研究者の中から、

運営委員会の議を経て所長が推薦し、学長が委嘱する。

三 研究員の研究期間は一年とする。ただし、事情により研究期間の延長を認める。

(運営費)

第十条 研究所の運営費は、駒澤大学の年間予算、寄付金その他をもって充てる。

(規程の改廃)

第十一条 この規程の改廃は、運営委員会の議を経て、大学の承認を得なければならない。

附則

この規程は、平成八年四月一日から施行する。

附則

この規程は、平成十年四月一日から施行する。

附則

この規程は、平成二十一年四月一日から施行する。

令和二年度駒澤大学仏教文学研究所所員

所長	文学部教授	田中 徳定	所員兼幹事	総合教育研究部教授	鈴木 裕子
顧問	名誉教授	富士 昭雄	所員	仏教学部准教授	藤井 淳
〃	名誉教授	高橋 文二	〃	仏教学部准教授	山口 弘江
〃	名誉教授	林 達也	所員兼幹事	文学部准教授	徳野 崇行
〃	名誉教授	坂口 博規	所員	文学部講師	菅野 洋介
所員	仏教学部教授	飯塚 大展	所員兼幹事	仏教学部講師	大澤 邦由
所員兼幹事	仏教学部教授	石井 公成	〃	文学部講師	三樹 陽介
所員	仏教学部教授	金沢 篤	研究員		山口 智弘
〃	仏教学部教授	村松 哲文	〃		阿部 昌子
〃	文学部教授	小田 匡保			伊藤 達氏
所員兼幹事	文学部教授	近衛 典子			小笠原 広安
〃	文学部教授	櫻井 陽子			
〃	文学部教授	土井 光祐			
所員	文学部教授	瀧音 能之			
〃	文学部教授	中村 淳			
〃	文学部教授	モート, セーラ			

彙報

一 三樹陽介氏（文学部講師）、山口智弘氏（文学部講師）を研究所員として委嘱した。

二 令和元年度 研究発表会

二月二十二日（木）午後三時より

駒澤大学第一研究館四階文学部会議室

「現代の台湾寺院の蕁蘭盆会 — 寺院調査の結果から —」

仏教学部准教授 徳野 崇行 氏

「『太平記』と禅 — 辞世の頌を中心として —」

文学部教授 田中 徳定 氏

編集後記

本年度は新型コロナウイルス（COVID-19）の世界的な流行に揺れた一年でした。世の中で「不要不急」の外出自粛が叫ばれる中、駒澤大学では五月の連休明けからやっとオンラインでの授業が開始されました。しかし、ほとんどの授業では対面授業ができないままに一年の授業が終わりました。この文章を執筆している令和三年の新春時点でも感染収束のめどはついていません。

本研究所の活動においても、感染防止の観点から例年行われている公開講演会は中止となりました。他の学会等でも講演会や学術大会の中止が相次ぎましたが、学術的に貴重な知見を学ぶ機会を失ってしまったことは残念でなりません。

そのような中、本号には四名の先生方から興味深い論考をご寄稿頂きました。それぞれの内容は多岐にわたっており、仏教文学の裾野の広さを感じずにはいられません。「新しい生活様式」というさなかにおいてご寄稿くださった先生方に感謝申し上げます。

このような中でも無事に発刊することができて胸をなで下ろしています。感染症の早期収束を願ってやみません。

（〇）